
日本人間関係学会ニュース 第 89 号 発行日:2017.3.22

News No.89 Japan Association of Human Relations March 22, 2017

発行：日本人間関係学会 広報委員会 E-mail: nagano@klc.ac.jp 永野典詞研究室
事務局：〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641 東京理科大学理工学部教養科川村(幸)研究室
FAX:04-7122-1560 E-mail:jahrjimukyoku@gmail.com

[内容] ☆大会委員長挨拶 ☆全国大会特集——大会長講演、基調講演、ワークショップ他 ☆人間関係学探訪 ☆事務局だより

《大会委員長挨拶》

第 24 回全国大会を振り返って

大会委員長 谷 川 和 昭
(関西福祉大学准教授)



日本人間関係学会第 24 回全国大会を初の兵庫県は赤穂市で開催できましたことに厚く御礼申し上げます。無事に大会を終えられて、感慨もひとしおです。

開催について打診をいただいたのは一昨年（2015）1 月のことでした。師の一人と仰ぐ三好明夫先生からです。忘れもしません。すぐに承諾のお返事をしたものの、その重責を担えるのかとても不安でした。

今だからこそ分かるのですが、大会の閉会まで三好先生は私の懸念を小山望理理事長とともに最大限払拭してくださいました。感謝です。

前大会委員長の永野典詞先生からいただいた

ご支援も忘れられません。とくに、それまで私があたっていた広報委員会の業務の大部分を分担してくださいました。また、機関誌編集委員長の加藤誠之先生からも大会準備運営に専心できるようにと査読委員の休止の申し出を了解してくださいました。感激です。

本学会の地区会の 1 つに関西地区会がありますが、大会前年の 9 月には本学で研究会を開催する運びとなりました。全国大会の開催が予定されている関西福祉大学とはいったいどのよう

な場所だろうと、早坂三郎先生を中心に遠くは熊本、三重、愛媛から多くの会員にご来学いただきました。参加者の皆様とは再会を誓い合い、本当にそのとおりになりました。感動です。

今回の全国大会では、支えて助けてくださった実行委員、協力者、学生スタッフからも力を与えてもらったこと、忘れられません。情報交換会での原子純先生の名司会ぶりは鮮烈な印象が残っております。感謝・感激・感動です。

お陰様で参加者全員によって良い大会を創り上げることができました。とはいえ、ご参加い

ただいた会員や一般の方々に十分な配慮が行き届かなかった点があるとすれば、それはすべて私の不徳のいたすところです。

最後に、基調講演をいただいた井上深幸先生、招待フォーラムを主導

いただいた目黒輝美先生、ワークショップの講師をご担当いただいた小山先生、杉山先生、占部先生、河合先生、山本先生、加藤先生、そして、すべての参加者・関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

大会前や大会時の詳しいエピソードについては、本学会広報誌委員会による『こころの広場』からもインタビューを受けましたのでそちらに譲ります。この辺で筆を置きます。

今後ともご指導いただけますよう何卒よろしくお願い申し上げます。



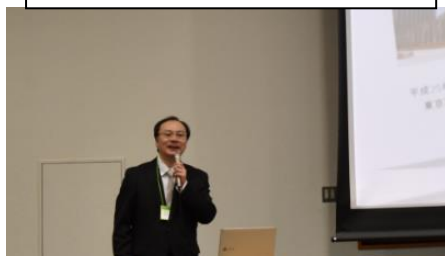
大会特集—大会長調、基調講演、ワークショップ

大会長講演

未来を磨く人間関係力の再生へ



上: 竹本さん(司会) 下: 谷川氏



2016年11月19日(土)、司会の竹本愛良さんのアナウンスで「未来を磨く人間関係力の再生へ」と題する大会長講演が始まる。登壇者は、本学会理事の谷川和昭氏。

講演では、谷川氏が初参加の第17回大会「人間関係の忘れもの」、第19回大会での「今求められる人間関係力」などエピソードを交えて本学会が本邦初2003年に提唱した人間関係力のルーツを紐解いた(スライド左下参照)。

- ・「自己」も「人」も「物」も共に生かされ創造されることに働く力
- ・「関係」を共に創る力
- ・お互いに尊重しあい、共に育ち合えるような関係を結ぶことができる力
- ・よりよい、より高質な関係を気づいていく力
- ・他者とよい関係を持つことができる能力

こうした先行研究の紹介を経て、現在学会が提唱する7つの人間関係力について自己採点が披露された(スライド右下参照)。

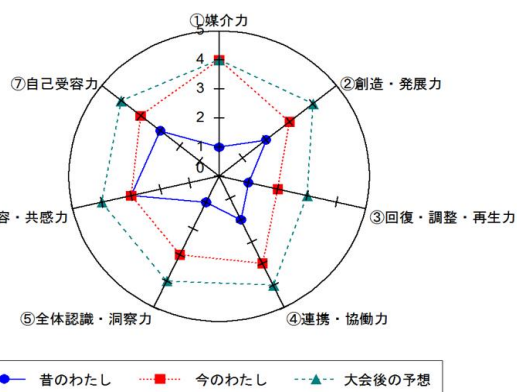
時間は瞬く間に過ぎていき、谷川氏はむすびの言葉として、宮崎章二による次のメッセージを引用紹介した。

「心」はだれにも見えない。けれど「心遣い」は見える。「思い」は誰にも見えない。けれど「思いやり」は見える。あたたかい心も やさしい思いも行いによってはじめて見える。あたたかい心があたたかい行為になり、やさしい思いがやさしい行為になるとき、「心」も「思い」も初めて美しく生きる。それは人が人として生きることだ。

「人が人として生きること」とは、人間としての完成をめざすことに他ならない。「完全」にはなれないが、人誰もが大切にしなければならないことについて、共有できる機会となった。

人間関係力の定義

- 「自己」も「人」も「物」も共に生かされ創造されることに働く力のことである(佐藤啓子、2004)
- 個人にのみ求められる資質や能力ではなく、「関係」を共に創る力なのである。それは**チーム力**とも言えるし、**集団力**とも言えるものである(佐藤啓子、2004)
- 今ここの出会いにおいて、**お互いに尊重しあい、共に育ち合えるような関係を結ぶことができる力**である(吉川晴美、2004)
- 人が他者を理解し、二人としての共可能性を提示し、新たなものを創造しつつ、そのときもった共感を通じて、さらに**よりよい、より高質な関係を気づいていく力**と言うことができる(小谷津孝明、2004)
- 簡単に言えば、人が**他者とよい関係を持つことができる能力**と言える(小谷津孝明、2004)



基調講演

コミュニティアケア実践による人間関係への貢献 ー住民参加型活動の機能分析からー



基調講演で語る井上深幸氏

基調講演は、京都看護大学教授の井上深幸氏。住民参加型活動における機能分析の観点から、「コミュニティアケア実践による人間関係への貢献」に関して、実例をもとに解説された。

井上氏自身による2008年からの取り組みであるフットケアは、場所をマンション1階集会所、日時は週1回13:30～15:00、内容として足浴、講座（「食と健康」「色とおしゃれ」「ダンス」「住まい」）など。スタッフに介護福祉士養成課程在学生、卒業生、教員仲間の三者が集い、運営をマンションのコミュニティ委員（管理組合員）との協働で実施し、地域包括支援センター職員の協力も得たという。



当日スライド「つながる」より

この人と人を繋ぐ取り組みは、学生のボランティア活動としてKBS京都放送で2008年5月にテレビ放映された。講演では、その一部が上映され、「学生と地域の人をつなぐ」「集いの場を中心に人々をつないだ」ことがよく理解できた。また、「人々をつなぎ、グループをつなぐ」ことで様々な活動が始まり、それぞれの展開がみられるという持論には説得力があった。

大きなつながりになったことが視覚的に確認され、その中心には紛れもなく「人」が存在することが確認された。人間関係力の再生には「つながる」がキーワードであることを会場内で共有できた時間となった。



大会メイン会場入り口前

ワークショップ

集団療法、福祉・介護・看護の傾聴、保育・教育、人権、生徒指導と体罰 ～5つの小会場・中会場で ワークショップを初開催～

今大会の大きな目玉の1つであるワークショップは、大会長講演・基調講演に続き、関西福祉大学内の5つの教室会場で、総勢6名の本学会役員からなる講師陣を迎えて華々しく開催された。

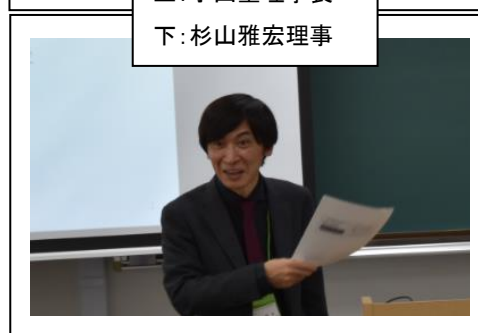
A会場：小山望理事長が直々にファシリテーターを務めた「集団療法における人間関係づくり」では参加者間の信頼関係や感情交流が深められた。



集団療法の体験の様子



上：小山望理事長



下：杉山雅宏理事

B会場：杉山雅宏理事の「福祉・介護・看護における傾聴と人間関係づくり」では参加者の“自信”を引き出した。



左：占部慎一常任理事 右：河合高鋭理事



C会場：占部慎一常任理事・河合高鋭理事のコンビによる「保育・教育における人間関係づくり」では、“ことば”の力を再考した。

D会場：山本克司常任理事の「ドラえもんに学ぶ人権と人間関係」では、お約束の主題歌を替え歌で熱唱され、会場中が歓喜にわいた。

E会場：加藤誠之理事の「生徒指導と体罰をめぐる人間関係」では、重たいテーマながらも持ち前の軽妙な魅力的なトークで、津々で活発な議論が繰り広げられた。



加藤誠之理事



山本克司常任理事

このように学会大会初となるワークショップは、どの会場も熱気にあふれるものとなった。今大会のみならず、次大会へつなぐための試金石になったといえよう。

大会特集—招待フォーラム、研究・実践発表、自主シンポジウム他

大会招待フォーラム

地域で暮らし、地域で働く障がい者

障がいの有無に関係なく、老若男女に関係なく、誰でも住み慣れた地域で暮らし、働いて社会に貢献できないか。そうした社会づくりを願って、社会福祉法人はなさきむら（兵庫県佐用町）はその実践を積み上げてきた。理事長の目黒輝美氏は「生きるよろこび広げよう」という理念を関係者と共有を図った。そして「住み慣れた地域でずっと暮らすために」フォーラム実行委員会の代表者として、アクションリサーチによって当事者の一般就労とその継続実現にこぎ着けた。

今回のフォーラムでは当事者5名による発表があり、今後の研究方向と課題についても議論された。大会2日目午後に開催されたこのフォーラムには50名超が参加し、熱心に耳を傾けていた。



フォーラム発表の様子

研究発表・実践発表、自主シンポジウム、自主ワークショップ

大会2日目午前の研究発表は18件、同じく実践発表は4件と5会場に沸かれて盛況を呈した。今大会では、特に実践発表が増えたことは喜ばしいことである。

同日午後には自主シンポジウム「文学

と人間関係」と、関東地区会の主催による自主ワークショップ「人間関係士のためのヒューマンリレーションシップ・スキルトレーニング」も開催された。

今大会は、関西地区会のみならず、関東地区会、東北地区会も多くの方の来場参加があり、良い交流ができたと考えられる。



関東地区会による自主ワークショップ



自主シンポジウム

人間関係学探訪シリーズ⑤

日本人間関係学会は教育・医療・心理・福祉など研究者だけでなく、人間関係に関心のある企業人、学生、市民など多種多様な会員が集まっています。そうした会員のお一人おひとりにスポットを当てて、Q&A形式で、その実践やお人柄、人間関係への想いを語っていただき、人間関係学の探究に何らかの示唆を得ることが本シリーズの意図・ねらいです。シリーズの第5回では、神奈川県は鶴見大学短期大学部の河合高鋭先生に語っていただきました。

河合 高鋭 氏

鶴見大学短期大学部講師。修士（教育学）、保育士、幼稚園教諭、特別支援学校教諭、特別支援教育士、自閉症スペクトラム支援士、ムーブメント教育・療法上級指導者。主な研究領域は「インクルーシブ保育」など。



日本人間関係学会第24回全国大会関西福祉大学にて



日本人間関係学会支援活動委員会にて南三陸町細浦仮設へ定期的に訪問しています。写真は盆踊りでの1シーン。

永野（広報委員会）：こんにちは。河合高鋭先生。お目にかかるのは昨年11月の関西福祉大学での全国大会以来となります。大会ではお世話になりました。

河合：全国大会ではお世話になりました。今回、「障がいのあるなしにかかわらない多様性を認めるインクルーシブの研究」を発表させていただき、第4回大会最優秀発表賞を受賞することができました。多様な子どもを大切な存在として受けとめる人間関係、一人ひとりが伸び伸びと育つ環境、そして子ども同士が育ちあう保育、つまり「インクルーシブ保育」が行われることを目指しています。本当にありがとうございました。

永野：ありがとうございます。さて、河合先生のご経歴を教えてください。

河合：元々は療育センターで指導員として働いていました。現在は鶴見大学短期大学部で教員をしていますが、障がいのあるなしにかかわらず、どの子にもうれしい保育をめざし日々幼稚園や保育所へ出向き奮闘中です。

永野：教育と現場でのフィールドワークとご活躍ですね。では、次に先生のご趣味は何ですか。

河合：最近では家族でバーベキューをすることにはまっています。火おこしをしない、ホットプレートでの簡単バーベキューですが、娘が大きくなったら一緒に火おこしをして、

本格的なバーベキューができればいいなと思っています。

永野：バーベキューはいいですね。近場でもキャンプでも皆が笑顔になりますよね。では、学会に入会してどのくらいになりますか。

河合：2011 年に入会しましたので、今年で 7 年目になります。

永野：学会に入られたきっかけは。

河合：本学会の会長でいらっしゃいます小山先生にお誘いいただきました。2011 年 3 月には東日本大震災が起こり、同年 8 月に立ち上げられた日本人間関係学会支援活動委員会の一員として、宮城県南三陸町での支援活動に参加しました。

被災地では 6 年経った今でも復興は終わっていません。これからも継続した支援が必要だと感じています

永野：支援活動については、学会ニュース等で拝見していました。いつも積極的な活動に感銘していました。では、先生が主宰あるいは積極的に活動されていることがあれば教えてください。その質問を入れたいと思います。または、何かライフワークについてでも結構です。

河合：一般社団法人 Get in touch が主催している Warm Blue2017 に向けて、日々活動中です。これは、国連が定めた 4 月 2 日世界自閉症啓発デーに行う企画です。

永野：先生はさまざまな場所、人、取組内容で多目的にご活躍ですね。羨ましいです。ところで、本学会には人間関係士という資格があり、7 つの人間関係力を打ち出しています。この 7 つを大事になさっている順番に並べ

替えるとうなりますか。

河合：④連携・協働力、⑦創造・発展力、⑥全体認識・洞察力、①他者受容・共感力、②自己受容力、③回復・調整・再生力、⑤媒介力でしょうか。

永野：並び替えてみてのご感想をお願いします。

河合：何事にもチームワークが大切だと思っています。人間関係においても、学校や普段の生活においても、コミュニケーションを取りながら周りの人と連携・協働して関係を築きあげていくものだと感じています。

永野：先生を見ているとチームワークを重んじ、協働することを意識されているな、と思うことが多々あります。私も見習いたいです。では、最後にもう 1 つだけ。人間関係、こうすれば良くなりますよという何か提言なり提案はございませんか。

河合：相手を変えようと思うと互いに無理をしてしまうことがあります。私は、まず自分を少し変えていくことを意識しています。自分に合う人とだけ付き合いを続けるのではなく、合わない人ともどのようにしたら良い関係を築くことができるのか、相手のことを理解し、自分のことを理解してもらうことで人間関係が良好に保たれるのではないのでしょうか。

永野：相手を変えようとしない、これは本当に共感します。変わろうとする手助けですね。先生の人間味あふれるお話に引き込まれてしまいました。今日は貴重なお話をどうもありがとうございました。

(インタビュー：2017年2月28日)



《事務局便り》

- ✓ **会員状況** (3/3 現在)
221 名 (内訳: 正会員 194 名、準会員 26 名、賛助会員 1 名)
- ✓ **新入会員** (2016/10/2～2017/3/3)
10 名 (内訳: 正会員 9 名、準会員 1 名)
- ✓ **新入会員紹介** (順不同・敬称略)
鈴木 満、郷内 美幸、内城 喜貴、林 真紀、金野 明子、阿部 美佳
- ✓ **退会者** (2016/10/2～2017/3/3)
7 名 (内訳: 通常退会者 7 名、会費未納等による退会者 0 名)
- ✓ **会費納入について** 2016 年度 (2016 年 10 月～2017 年 9 月)
まだ納入されていない方はお早めにお納めください。ご協力をお願いいたします。
- ✓ **支援活動委員会の口座について**
支援活動委員会のご支援はこの口座へお願いいたします。
(「支援活動委員会」ゆうちょ口座)
記号 10980 番号 24197571
口座名 日本人間関係学会支援活動委員会 代表 河合高鋭
(銀行からの振り込みの受け取り口座)
店名 ○九八 (読み ゼロキュウハチ) 店番 098 口座 普通 2419757
- ✓ **事務局からのお願い**
住所・連絡先・所属・会員身分の変更などがありましたら、至急事務局までメールもしくはファックスでご連絡ください。
E-mail: jahrjimukyoku@gmail.com FAX: 04-7122-9219

《第24回全国大会 情報交換会より》



(編集後記)

今号は全国大会特集に多くの紙面を割きましたが、私自身が一昨年、大会委員長を務めていましたので、谷川大会委員長の心境もよく理解できる立場にいました。そこで、少しでも全国大会のメッセージが伝わるよう編集を心がけました。学会ニュース(87～89号)の編集長を1年間の約束でピンチヒッターを担当させていただき、これでその任も解かれますが、次号は「90号」という節目を迎えます。今後でもできる形で協力したいと感じております。1年間ありがとうございました。(永野)